

あきた芸術劇場中ホールへの反響板の常設について

令和2年8月24日受理

現在、建設中の県・市連携文化施設、あきた芸術劇場における中ホール（舞台芸術型ホール（約800席））は、演劇等に特化した特殊なホールであり、反響板（音響反射板）を設置しない方針と判明しました。全国の各自治体が設置した文化ホールには、反響板が組み込まれるのが一般的であり、マイクを使用しない学校祭・合唱・吹奏楽などの演奏活動に反響板は必要不可欠であります。また、今後、機能廃止される秋田市文化会館の大・小ホールにおいても反響板は設置されています。

したがって、同劇場中ホールにおいても、施設建設前に反響板の設置について有識者を交えた席で議論を重ねることや議論内容を公開することなど、正しいプロセスを経て設置の有無を決定すべきでした。

一方で、令和2年6月定例会の総務委員会において、担当部局より、大ホールに反響板を備えつけるほか、アトリオン音楽ホールや児童会館けやきシアターにも設置されていることから、演目や来場者数に応じた使い分けが可能といった説明がありました。しかし、アトリオン音楽ホールはこれまでの利用者で飽和状態にあることや、児童会館は控室が皆無に近く文化活動に不向きであるといったことがあり、同劇場中ホールに反響板が設置されないことによって秋田市民の文化活動に支障があることは明らかであります。

そうした中、私たちの趣旨に御賛同いただける方に「新文化施設中ホール反響板設置についての陳情・要望書」の署名活動をしたところ、1万1,676筆（7月26日現在）と多くの署名をいただいております。

つきましては、あきた芸術劇場中ホールを、一般的で利便性にたけた多目的ホールとし、多くの分野の県民が舞台を利用できるように、反響板を常設していただくようお願いします。